



おしゃべりかわらばん

初めての司会に緊張...

司会役は、やっぱり緊張しました。ちょっとざわめいたけれど、参加者のマナーも良く、ほっとしています。今は学生なので、夢に向かって勉強を頑張ります。そして、社会に出たら、よりよい未来をつくりたいです！



新成人のついで、司会を務めた大賀啓子さん(左)と大友大樹さん

冬のホットな思い出!

綱引きやクイズで盛り上がりました。特に、スキーが楽しかったです。愉快的なコーチが、やさしく教えてくれたのでとてもリラックスしてスキーができました。おかげで、転ばずに滑れたよ! サンキュー、コーチ!



1月10日、オーパスちびっこ雪まつりに参加した石井敦士さん(左)・智大さん(牛島)

ボランティア、楽しいな

図書館は普段利用しているけど、録音室や研修室、本の倉庫などいろいろな部屋があってビックリしました。絵本の読み聞かせが終わって、みんなが拍手してくれたときは、とてもうれしかったです。来年もまた参加したいです。



1月9日、明德館の図書館ボランティア体験に参加した斉藤優衣さん(八橋小・4年)

五色の放水きれい!

出初式は初めて見ました。消防車や救急車もこんなに近くで見るとは初めて。今日一番のお目当ては、五色の放水。赤や青の色がついた水が、白い雪の上に広がってとてもきれい! 風が強くて寒かったけど、楽しかったです!



1月5日、出初式を見に来た保坂茉莉奈さんと有里采さん(飯島)

役に立った救命講習

救命講習会を4回受講(郡司さん)したおかげで、心肺蘇生法の手順はしっかり頭に入っていました。二人で力を合わせて、救急車が来るまでの間必死で繰り返しました。大切な人の命、助けることができてよかったです。



心肺停止の傷病者に心肺蘇生を行い、人命救助した郡司聡さん(左)と鎌田淳さん



民謡での功績が認められ、薦田(こもた)賞と民謡栄誉賞を受賞した日本民謡梅若流宗家・浅野梅若さんから、「社会福祉事業に役立ててください」と、秋田市ふれあい福祉基金へ50万円の寄付をいただきました。

た雪道が怖くて、見た目は格好悪くても、スパイク付きの赤いブーツを履いて歩いていきます。笑わないでね(藤井美紀 33歳・桜力丘)
秋田に引越してきて約半年が経ちました。生まれて初めての雪国の冬を体験しています。雪が降るたびに驚いています(堀部広美 26歳・八橋)
寒い冬です。年寄り二人で毎日雪寄せに汗を流しています。雪寄せができなくなったらどうしよう(佐々木紀子 70歳・將軍野)

係からひとこと

平成十六年は「秋田市建都四百年」。私たちが今住んでいるまちの原形ができてから四百年目を迎えます。ロゴマークとキャッチコピーも決まり、ポスターなどでこれから目にする機会も多くなることでしょう。
そして目にする機会が多くなるもう一つのキーワードが「合併」です。今また私たち自身が、将来あるべき秋田市のことを真剣に考える時期にさしかかりました。そんな時期に広報を作ることは大変でもあり、また、貴重な経験でもあると感じています。
「建都四百年」も「合併」も主役はみなさんです。今年一年ともに考え、よりよいものができるよう、広報を通して情報提供できればと思います。(石塚)

広報クイズ

12月27日号の当選者

前回のクイズの答えは、問1が「25万人」、問2が「2月1日」でした。

全問正解109通(応募総数111通)の中から、加藤久美子さん(手形住吉町)、門屋博子さん(外旭川字三千刈)、熊谷豊さん(檜山城南町)、佐藤兼三郎さん(外旭川字家ノ前)、鈴木恭子さん(大町六丁目)、田口晋さん(太平中関字寺中)、保坂美佳さん(仁井田本町二丁目)、松村隆さん(千秋中島町)、松本セチさん(大住一丁目)、柳田潤子さん(八橋大沼町)の10人のかたに図書券をお送りします。

1月の広報クイズは最終面です。よろしく!!

広報クイズの当選者は、毎回、市政記者室の記者のかたに厳正に抽選してもらっています(広報課)



東部公民館の世代間交流会で。こま回し、エイッ!

読者のみなさんのページです。最終面に掲載している広報クイズの答えと一緒に、気ままなひとこと、ちょっと言いたいひとことを、お待ちしております。

井戸端 市民通信

月刊

読者の伝言板

敬称略

元旦、玄関で「ピンポン!」とチャイムが鳴り、家内が出るとなんと年賀状配達の学生のバイトさん。「おめでとうございます。年賀状です」と手渡してくれたとのこと、非常に感心していました。これを聞いてバイトさんの責任感、やさしさを強く感じました。職員のかたのご指導もあると思いますが、本当にありがとうございます。バイトさん、いつもやさしさを忘れず身に付けていてください。ありがとうございます(三浦忠雄・74歳・千秋)
昨年、例年より約一か月早く降雪があつて驚きました。今年元旦は、県民に夢と希望を抱かせるような晴れやかな一日でした。これから一月、二月と、降雪も寒さもきびしい季節を過ごさねばなりません。春の到来とともに、元旦のように明るく、夢が少しでも先に見えるような社会であつてほしいと願っています(山崎権一 79歳・東通)
秋田市民市場が新しくなつ

て、店を回るのが楽しくなりました。実家にハタハタを送るときも親切にしていたいただき、また行こうと思いましたが、ずっと今のような明るい市場であつてほしいです(金澤奈穂子 29歳・八橋)
昨年、故郷秋田市に引越してきて、秋田と東京の違い(お互いに長所、短所はありますが)を強く感じています。秋田市のおもな道路、例えば中央通り、南通りを走る自動車の数は相当なものです。時間帯や日によっては信号待ちが見られます。それに反し、立派な歩道を歩く人の数の極端な少なさです。健康維持、秋田市の経済活性化のためにも、もっと歩いたほうがよろしいかと思えますが...(原多慶男 67歳・中通)
秋田大橋の渡り納めに参加できず、残念でした。初めて秋田県に来て駅に降りて、タクシーに乗り、渡った大橋でした。四十年前のことでした(後藤康子 62歳・牛島)
今、妊娠八か月です。凍っ

地域のお話 おしえて!!

豊岩小学校で5年間プルタブ集め、車いすを贈呈 リサイクルと福祉に貢献で一石二鳥!

1月15日、豊岩小学校の児童たちが、介護老人保健施設「ふれ愛の里」に車いす1台を贈りました。豊岩小学校のJRC委員会の児童12人が先に立ってプルタブ(空きかんのふた)を5年間収集。集めたプルタブは約800kg!にもなり、これが車いす1台分になりました。環境問題が騒がれるなか、空きかんやプルタブを集めることはリサイクルにもつながります。

「とても使いやすい車いすなので、たくさんの人に利用してほしいです。みなさんが喜んでくれると、私たちも集めたかいがあります」と子どもたち。「すばらしい車いすをいただき、とても感謝しています。車いすはお年寄りの骨折の予防にもなるんですよ」と進藤和夫施設長。小さな積み重ねが、たくさんの方の大きな喜びにかわりました。

このコーナーでは、町内や地域のいろいろな話題を紹介していきます。耳よりなニュースがありましたら、広報課までお知らせください。 ☎(866)2034 FAX(866)2287



おじいちゃん、おばあちゃん、乗り心地はどう? ものすごくしっくりくるな